

【 専門分野 母性看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
女性をとりまく社会と健康	1	15時間（7回）	2年次・前期	大上 美和	
実践的教育内容	助産師として5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修で母性看護学領域についての教授方法を修了した者が、女性のライフサイクル各期における看護の役割、母子保健について教授する。				
学習目標	1. 母性看護の概念、母性看護を必要とする対象の特徴を理解する 2. 女性のライフサイクル各期における看護の役割と必要な看護技術を理解する 3. 我が国の母子保健対策を理解し母性看護を実施するにあたり重要な各種法令を理解する 4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1. 母性看護の基盤となる概念 ・母性とは ・セクシャリティ ・リプロダクティブヘルス ・ヘルスプロモーション	講義	5回	4. 母性看護に必要な看護技術 ・女性のヘルスアセスメントの考え方 ・基盤となる看護技術	講義
2回	・母性看護のあり方 ・母性看護における倫理、安全、事故防止	講義	6回	5. 女性のライフステージ各期における看護 ・女性の健康と看護の必要性 ・思春期の健康と看護 ・成熟期の健康と看護 ・更年期の健康と看護 ・老年期の健康と看護	講義
3回	2. 母性看護の対象理解 ・女性のライフサイクルにおける形態、機能の変化 ・女性のライフサイクルにおける家族 ・母性の発達、成熟、継承	講義	7回	6. リプロダクティブヘルスケア ・家族計画 ・性感染症と予防 ・児童虐待と看護 ・国際化社会と看護	講義
4回	3. 母性看護の対象をとりまく社会の変遷と現状 ・母性看護の歴史の変遷と現状 ・母子保健統計の動向 ・母性看護に関する組織と法律	講義	8回	まとめ・終講試験	試験
評価方法	筆記試験 100点		教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 (医学書院)	

【 専門分野 母性看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
妊娠・分娩期の看護	1	30時間（15回） ① 14時間（7回） ② 16時間（8回）	2年次・前期	① 松本 幸子 ② 大門 保代	
実践的教育内容	市立病院の母性病棟で20年以上勤務経験のある助産師が妊娠期・分娩期における妊婦・産婦と胎児についての正常な経過と観察技術を強化し看護につなげられる内容を教授する。				
学習目標	1. 妊娠・分娩の正常経過を理解する 2. 妊娠期・分娩期における身体的、心理的、社会的変化を理解する 3. 妊婦・産婦・胎児のアセスメントについて理解する 4. 正常経過にある妊婦・産婦の看護を理解する 5. 妊娠期・分娩期に必要な看護技術を理解する				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 (松本)	1. 妊娠期の身体的特性 ・妊娠の生理 ・胎児の発育とその生理 ・母体の生理的变化	講義	8回 9回 (大門)	6. 正常な分娩経過 ・分娩進行と産婦の変化 ・産痛の機序と緩和の方法 ・分娩による児への影響 ・産婦の心理、社会的変化	講義・演習
2回 (松本)	2. 妊娠期の心理・社会的特性 ・妊婦の心理的適応 ・母親役割獲得への準備 ・妊婦の家族及び社会	講義	10回 11回 (大門)	7. 産婦・胎児・家族のアセスメント ・健康状態、心理、社会面のアセスメント	講義・演習 講義・演習
3回 4回 (松本)	3. 妊婦と胎児のアセスメント ・妊娠の経過と診断 ・胎児の発育、健康状態 ・妊婦と胎児の健康状態のアセスメント	講義 講義 講義	12回 (大門)	8. 産婦と家族の看護 ・看護目標と産婦のニーズ ・安全、安楽な分娩の看護	講義・演習
5回 6回 (松本)	4. 妊婦の家族と看護 ・保健相談の目的、方法 ・保健相談の実際 ・親になるための準備教育	講義	13回 14回 15回 (大門)	9. 分娩期の看護の実際 ・分娩第1～4期の看護 10. 分娩期の看護技術 ・産痛緩和法 ・呼吸法 ・分娩体位 終講試験	講義・演習 講義・演習 講義・試験
7回 (松本)	5. 妊婦健診に必要な技術 ・妊婦体験、子宮底測定 ・レオポルド触診法	講義・演習			
評価方法	筆記試験 100点 ( ① 50点 ② 50点 )		教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 (医学書院)	

【 専門分野 母性看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
産褥期・新生児の看護	1	30 時間 (15 回)	2 年次・後期	喜多村 紀江	
実践的教育内容	総合病院のレディース病棟で20年以上の勤務経験のある助産師が産褥期・新生児期の正常な経過と、褥婦・新生児における観察技術を強化し看護につなげられるよう教授する。				
学習目標	1. 産褥・新生児の正常経過を理解する 2. 産褥期・新生児期における心理的、社会的変化を理解する 3. 褥婦・新生児のアセスメントについて理解する 4. 正常経過にある褥婦・新生児の看護を理解する 5. 産褥期・新生児期に必要な看護技術を理解する				
D P と の 関 連	<input checked="" type="checkbox"/> 1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 産褥期の正常経過 ・産褥期の身体、心理、社会的変化 ・家族の心理的变化	講義	8 回 9 回 10 回	6. 新生児の観察と看護 ・出生直後の看護 ・出生後から退院までの看護 7. 帝王切開術後の看護	講義 講義 講義
2 回	2. 褥婦のアセスメント ・退行性変化、進行性変化 ・褥婦の健康状態 ・セルフケアレベル	講義	11 回 12 回 13 回 14 回	8. 産褥期・新生児期に必要な看護技術 ・褥婦の観察に必要な技術 ・授乳時の観察と看護技術 ・新生児の観察技術 ・新生児の清潔援助	演習 演習 演習 演習
3 回	3. 褥婦と家族の看護 ・セルフケア不足への看護 ・育児技術に関わる看護 ・退院にむけての看護	講義	15 回	まとめ 終講試験	講義・試験
4 回	4. 新生児の生理 ・新生児の機能	講義			
5 回	5. 新生児のアセスメント ・出生直後の観察 ・新生児の診断 ・新生児の健康状態の	講義			
6 回 7 回	アセスメント	講義 講義			
評価方法	筆記試験 100 点	教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 (医学書院)		

【 専門分野 母性看護学 】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名	
母性各期の異常時の看護	1	15 時間 (8 回) ① 8 時間 (4 回) ② 7 時間 (4 回)	2 年次・後期	① 久松 武志 ② 重田 ゆかり	
実践的教育内容	大学病院・総合病院で13年勤務し、産婦人科病院を開業して3年目の医師が、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児における異常について教授する。 母性看護学療育担当教員が、領域のまとめとしてペーパーペイシェントによる看護過程展開技術を教授する。				
学習目標	1. 妊娠前からの女性・家族への支援と医療を理解する 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の異常を理解する 3. 正常を逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護を理解する 4. 正常過程にある妊娠期・産褥期・新生児期にある対象をアセスメントし、看護を考慮することができる				
D P と の 関 連	■1) 多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 <input type="checkbox"/> 2) 看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 <input type="checkbox"/> 3) 自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4) 健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5) 身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6) 健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> 7) 専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。				
回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (久松)	1. 母性の発揮を促す看護 ・子を産み育てること ・遺伝相談 ・家族計画 ・不妊治療と看護	講義		・新生児の異常と看護 新生児仮死、分娩外傷、 低出生体重児、高ビリルビン血症	講義
2 回 (久松)	2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護 ・妊娠の異常と看護 ハイリスク妊娠、感染症、 妊娠疾患	講義	5 回 (重田) 6 回 (重田) 7 回 (重田)	3. 正常経過にある妊婦・ 褥婦・新生児の事例展開 ・ウエルネス看護診断に ついて	講義 講義
3 回 (久松)	・分娩の異常と看護 分娩3要素に関する異常、 破水、分娩誘発、遷延分娩 帝王切開術	講義	8 回 (重田)	・妊娠期のアセスメント ・産褥期、新生児期の看護 展開 まとめ・終講試験	講義 試験
4 回 (久松)	・産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の 発熱、産褥血栓症、精神障害 ・精神障害合併妊娠と家族の 看護	講義			
評価 方法	① 筆記試験 50 点 ② レポート試験 50 点	教科書		系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 (医学書院)	